

苫小牧港 LNG バンカリング検討会の終了について

苫小牧港管理組合

苫小牧港管理組合並びに石油資源開発株式会社(以下「JAPEX」)は、苫小牧港を拠点とする LNG バンカリングの実施に向けた課題の検討のために2019年2月に設置した「苫小牧港 LNG バンカリング検討会」(以下「本検討会」という)が、計6回の会合を実施し、2020年4月に予定していた議事や検討を終了しました。

本検討会は、港湾管理者である苫小牧港管理組合をはじめ、北海道開発局苫小牧港湾事務所や北海道運輸局苫小牧海事事務所など地元の関係官庁と港湾関係者、ならびに(株)商船三井など海運業界をはじめとする民間企業など25の関係先が参加し、JAPEXが事務局を務めたものです。

主に苫小牧港における LNG バンカリングの実施方式毎の課題の洗い出しとその解決方法、適用法令に則ったルール作りなどについて検討を行いました。特に、具体的な各港湾岸壁の特徴(岸壁仕様と対象船舶)を含めた実践的な検討と考察の実施が、本検討会の成果となっています。

船舶燃料としての LNG 普及による温室効果ガス(GHG)や硫黄酸化物(SOx)の排出量削減への貢献を目指して、参加関係先が本検討会の成果を今後の苫小牧港における LNG バンカリングの早期実現に向けて、また、国内外の LNG バンカリングの推進などへ活用することを期待しています。

船舶のリプレイスのタイミングを考慮したインフラ整備への期待

苫小牧港に就航する船舶のリプレイスのタイミングを考慮すると、バンカリング方式毎の導入時期を視野に入れたインフラの整備や準備が重要です。

停泊時間との兼ね合いや燃料供給荷役オペレーションの負荷軽減を考慮すると、早期のShip to Ship方式の導入も検討する必要があります。

